社会福祉法人はるの里

2025年度 事業計画書

基本理念 ～大切にしたいこと～

- ・ どんなに障害が重くても、社会の主人公として豊かに生きていくことや、そのための「力」を育むことを大切にします。
- ・ 障害のある仲間を人として尊重し、その人らしく当たり前地域で暮らしていけるよう力を尽くします。
- ・ 障害のある人もない人も、ともに安心して暮らしていける地域社会をめざします。

基本方針 ～めざしていくこと～

- ・ 障害のある仲間の願いを大切に、生きがいと喜びを実感できる日中活動を創り出していきます。
- ・ 障害のある仲間や家族の願いを真ん中に、法人役員、職員など関係者みんなの力を寄せ合い、願いの実現をめざしていきます。
- ・ はるの里や障害のある人たちのことを地域に発信し、理解と支援をひろげ、多くの方々につながっていきます。

1 社会福祉法人はるの里

① 法人経営の原則遵守

社会福祉法人はるの里定款第3条の「この法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を确实、効果的かつ適正 に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性の確保を図り、もって地域福祉の推進に努めるものとする。

この法人は、地域社会に貢献する取組として、地域の経済的に困窮する者などを支援するため、無料または低額な料金で福祉サービスを積極的に提供するものとする。」を2025年度の事業遂行する際に遵守する。

②法人の所在地

京都市西京区御陵谷町7-1

③法人役員

理事	6名
評議員	7名
監事	2名

2025年度は、理事・監事の役員改選時期にあたる。法人理念を継承発展させるとともに、次世代を見据えた役員構成を構築する。また、新たな事業展開にむけて、法人での論議をすすめていく。

④評議員会・理事会の開催

2025年度の評議員会は、会計年度の終了後3カ月以内に決算および理事・監事の選出の評議委員会を開催するほか必要がある場合に開催する。理事会は、決算書類および事業報告作成時期、次年度予算及び事業計画承認に関わる開催のほか、理事の業務執行状況の報告や法人の業務執行に関わり必要に応じて開催する。

⑤法人事務局会議の開催

理事会・評議員会開催時の議題と提案の整理と日常的な運営を円滑に行うために定期的に、また必要に応じて開催する。理事長・副理事長・所長・副所長の4人とその都度、理事長が指名した法人役員または、職員により開催する。法人事務局だよりを随時発行し、法人役員で情報共有をする。

⑥地域とともに歩む

- ・地域住民の福祉ニーズを把握し、地域住民対象の講座や相談活動、行事などを開催し、積極的に地域住民との交流をはかる。
- ・具体的な計画として、西京社会保障推進協議会の「何でも相談会」で市民の困りごとの相談にのる。また、西京の食材支援プロジェクト・秋のはるの里まつりで障害者問題の啓発や地域住民との交流を図る。

生活介護事業所はるの里の運営

① 生活介護事業所の所在地

京都市西京区御陵谷町7-1

② 定員・現人数

定員20人（契約人数19人） 2025年 4/1（予定）

③職員体制

サービス提供職員配置（…常勤換算）

管理者1名（0.5人）サービス管理責任者1名（0.5人）副所長1名

医師1名（0.01人）看護師1名 生活支援員 12名（9.5人）

運転手2名、事務1名

※2025年4月1日 当初（予）

④ 事業開始年月日

2009年9月1日

⑤ サービスの目的

利用者が自立した日常生活または社会生活を営むことができるように、排泄または食事の介護・創意的活動または生産活動の機会の提供その他の便宜を、利用者の意思及び人格を尊重し、適切かつ効果的におこなう。

⑥ 運営方針

関係法令を遵守し、他の社会資源との連携をはかり、利用者の意思および人格を尊重した、ひとりひとりの状況に応じた適切かつ、きめ細かな生活介護サービスの提供をする。

(サービス提供時間)

毎月曜日から金曜日の午前9時30分より午後3時40分までとする。

(サービス内容)

①相談及び援助 ②介護 ③生産活動 ④社会経験を豊かにする活動 ⑤健康の維持・増進の活動 ⑥食事の維持と提供 ⑦創作活動 ⑧送迎サービス

⑦ 主な設備

作業場兼食堂3 台所2 トイレ5 洗面所3 お風呂 相談室
会議室 事務室

今年度の法人及び事業所の重点施策

① 人材確保と育成

- ・ 障害のある仲間の日中活動をより充実させること、新規事業展開をするために職員の人材確保と人材育成に力を入れていく。
- ・ 所長・副所長・主任で構成する管理職とグループ長を加えた管理職集団がリーダーとなり、はるの里の実践・運営・運動が発展できるようにしていく。
- ・ 職員構成は、はるの里での経験年数が浅く、若い世代でとりわけ子育て中の職員が多いのが特徴となっている。若い世代、これからを担う管理的立場の職員がそれぞれの力を発揮できるよう力を育んでいく。そのために系統的な研修、実践に結びつく生きた学習を実施していく。
- ・ 職員は各自が役割を持ち、企画立案、実行の中心となりその遂行を通じて成長していく。
- ・ 新規採用の職員を迎えた際は、新人職員育成計画にもとづき丁寧な育成の支援をすすめていく。

- ・ 障害の重い仲間や医療を必要とする仲間の支援を充実させていく。より専門性を高めるため、強度行動障害支援者養成研修や喀痰吸引等研修を受講していく。
- ・ 事務所機能を強化するため、専属の事務職員をおく。2025年度は、前任者から引継ぎを行い、事務職として育成期間とする
- ・ 職員の福祉の専門性の向上をはかるため、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の国家資格取得を支援していく。具体的には、有資格者からの試験対策アドバイス講座開催や資格取得のための受講料一部負担をおこなう。
- ・ 実務経験など研修条件を満たしている職員は、サービス管理責任者、相談支援専門員などの研修を受講していく。
- ・ 職員各々が生き生きと働き、将来にわたって働き続けることができるように、キャリアパスに沿って力をつけ、階層が上がっていけるよう実施していく。また、必要に応じてキャリアパスを見直しよりよいものに改善していく。
- ・ 働きやすい職場環境の整備をすすめていく。

② よりよい実践を創り出していく

- ・ 障害のある仲間や家族の願いを大切に よりよい実践を創り出していく。
- ・ 日々の活動の基礎となる 3 つのグループ活動を仲間の願いにもとづき、仲間が主人公となるようすすめていく。
- ・ 外部との行事や宿泊を伴った取り組みを実施していくための準備を進める。
- ・ 仲間の高齢化や疾病等による重度化が進む中、いのちや健康を守る実践をすすめていく。
- ・ 仲間の願いに沿った個別支援計画作成と実現をしていく。

③ 新たな事業展開のかたちを描く。

- ・ 障害のある人たちが社会資源を活用しながらその人らしく地域で暮らしていく支援の構築をする。暮らしを支える事業の検討を施設長、副施設長を中心に検討をし、法人役員、利用者や家族、職員と情報共有および協議をしていく。暮らしを創るわくわくプロジェクトを継続してすすめる。
- ・ 暮らしに関わる支援を形にしていく。今年度中に宿泊の取り組みを始める。

④ 働きやすい職場に

- ・ 職員体制が安定できるようにしていく。
- ・ 就業規則や労基法にもとづいた働きやすい職場環境を整備する。
- ・ アニバーサリー休暇はじめ、有休を全職員が均等に取得できるように働きかけていく。

- ・ 職員の健康管理を充実させるために、健康診断の項目の拡充をすすめる。またインフルエンザ予防接種の一部費用負担をおこなう。

⑤ 災害対策

- ・ はるの里が開所している際に自然災害（台風、地震等）が起きた場合の BCP 計画にもとづき、具体的な想定での訓練を実施する。

2023年～2025年（最終年度）

3年間計画

1981年に、京都第一共同作業所「はるの里教室」として2名の障害のある仲間から出発をし、40年目を迎えます。2001年に社会福祉法人設立、2009年の生活介護事業に移行、2014年に土地取得と建物建設で現在の場所に全面移転をしました。「どんなに障害が重くても、社会の主人公として豊かに生きていくことや、そのための「力」を育むことを大切に」「障害のある仲間を人として尊重し、その人らしく当たり前地域で暮らしていけるよう力を尽くします」「障害のある人もない人も、ともに安心して暮らしていける地域社会をめざします」という法人理念を具体化するために、3カ年計画を作成します。

仲間を中心とした実践

- ・ 仲間の願いにもとづいた豊かな日中活動の実践を創り出していきます。
- ・ 仲間の高齢化、重度化していく仲間たちへの対応ができるように、法人内で検討をすすめ、かたちにしていきます。また、職員は専門的な力をつけるために研修を受けていきます。
- ・ 暮らしを支える事業の実施にむけて、本格的に計画をすすめます。

運営

- ・ 豊かな実践と職員の労働条件を改善するために、職員体制を安定させます。
- ・ 次世代を担う職員の人材育成をすすめます。
- ・ 全般的な職員の処遇改善をすすめ、将来にわたって働きやすい職場環境を整えます。
- ・ 法人として、地域住民の福祉ニーズを把握し、地域住民対象の講座や相談活動、行事などを開催し、積極的に地域住民との交流をはかります。

運動

- ・ 地域福祉向上をともにすすめる団体や個人と連携し、障害のある人もない人も安心して暮らせる地域づくりをすすめます。

- ・ 保護者会や後援会、実行委員会が主催する「はるの里まつり」の機会に、法人・事業所として、はるの里や障害のある人のことを知っていただく企画を同時に開催していきます。